

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

### 1. 基本的な考え方

当社は、経営理念として「スターゼンと取引をしてよかったといわれる会社にしよう」「仕事を通じて自ら成長しよう」「チームスターゼンで考え行動しよう」、経営ビジョンとして「食を通して人を幸せにするグローバルな生活関連企業を目指す」を掲げています。これらを実践し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するため、経営の監督と業務執行のバランスを取りつつ、透明・公平かつ迅速・果敢な意思決定を行うことを目的として、コーポレートガバナンス・コードの各原則の主旨を十分に踏まえつつ、コーポレートガバナンスの充実を図ってまいります。また、企業倫理を重視し透明かつ公正な企業活動を行うために「行動規範と行動指針」を制定し、遵守・徹底に努めます。

#### \* スターゼンと取引をしてよかったといわれる会社にしよう

当社は全てのステークホルダーへの社会的責任を果たすことを使命として認識しております。

特に当社を信頼いただき、お取引いただけるお客様先様の成長のために何をすべきかを常に考え、お客様先様の満足度向上に努めております。

#### \* 仕事を通じて自ら成長しよう

「常に安全・安心な商品を提供すること」により社会から必要とされる企業であり続けるために課題解決に向けた風通しの良い組織風土づくり等、「自律的に成長できる環境」を整備します。

#### \* チームスターゼンで考え行動しよう

「チームスターゼン」として最大限の力を発揮すべく、社員一人一人が自己責任を果たす「部分最適」とグループ各社が一丸となって業績拡大を図る「全体最適」の考え方を実践します。

#### \* 食を通して人を幸せにするグローバルな生活関連企業を目指す

食肉の生産から販売までの一貫した機能を持つ対応力を活かし、食品産業のあらゆる可能性をグローバルに追求することにより人々の幸せに貢献していきます。

### 【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】

#### 【補充原則1-2-4】

議決権電子行使プラットフォームの採用・招集通知の英訳

当社の株主における機関投資家や海外投資家の比率が低いことから議決権電子行使プラットフォームを現在は採用しておりませんが、今後の株主構成等を鑑みて検討いたします。

また、当社株主の外国人比率が低いことから、現在招集通知の英訳は実施しておりませんが今後検討いたします。

#### 【原則2-6】

企業年金のアセットオーナーとしての機能発揮

当社は従業員に対し、確定給付型企業年金を提供しておりません。

(ただし、社員の安定的な資産形成のため、企業型確定拠出年金制度を導入しております。)

#### 【補充原則4-10】

任意の仕組みの活用

当社は取締役会の諮問委員会として指名報酬委員会を設置しております。主要な構成員は、独立社外取締役ではありませんが、社外委員を委員長とし、過半数を社外委員とすることにより、この委員会の独立性を確保しております。

#### 【原則4-11】

取締役会・監査役会の実効性確保のための前提条件

現在の取締役会の構成は、社外監査役1名が女性で、その他は男性かつ日本人です。現在の構成が、取締役会の実効性を欠く要因とはなっていないと考えますが、今後の業務展開を勘案しつつ、ジェンダーや国際性の観点での多様性の向上を検討して参ります。

### 【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】 更新

#### 【原則1-4】

いわゆる政策保有株式

##### (1) 基本的な考え方

当社グループは、取引先との安定的・長期的な取引関係の構築、または業務提携による関係強化等、当社グループの中長期的な企業価値向上に資すると判断される場合、当該取引先等の株式を保有いたします。

## (2)保有状況の確認

前項に基づき保有する政策保有株式について、個別の政策保有株式について、保有目的が適切か、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を検証し、毎年度、期初の取締役会で確認するとともに検証の内容について開示します。検証の結果、保有の意義が希薄と認められる政策保有株式については適宜縮減を進めます。

## (3)議決権行使

政策保有株式について、株主としての権利を行使すべく、すべての議案に対して議決権を行使することとし、行使にあたっては政策保有先の中長期的な企業価値向上の観点から当該企業の経営状況等を勘案し、議案ごとの賛否を適切に判断いたします。

### 【原則1-7】

#### 関連当事者間の取引

- (1)当社グループがその役員や主要株主等との取引を行う場合には、当該取引が当社グループおよび株主共同の利益等を害することが無いよう、取引条件が一般の取引と同様であることを毎年度、期初の取締役会で確認いたします。
- (2)関連当事者間の取引について、会社法および金融商品取引法その他の適用ある法令ならびに東京証券取引所が定める規則に従って開示いたします。

### 【原則3-1】

#### 情報開示の充実

当社では、法令に基づく適時適切な開示の他、意思決定の透明性・公正性を確保し、実効的なコーポレートガバナンスを実現するため、以下のごとく主体的な発信を行っております。

- (1)経営ビジョン・経営理念・経営計画  
当社の「経営ビジョン」および「経営理念」については当社ホームページにて公表しており、「中期経営計画」についても当社ホームページにて公表しております。
- (2)コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針  
当社のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針については「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」として策定し、当社ホームページ([https://www.starzen.co.jp/ir/management\\_policy/governance.html](https://www.starzen.co.jp/ir/management_policy/governance.html))にて開示しております。
- (3)報酬の決定方針・手続  
役員等の報酬の決定方針・手続については、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」第2編 5.指名報酬委員会 および 6.役員等報酬に記載しております。
- (4)取締役・監査役を選任する方針・手続  
取締役・監査役を選任する方針・手続については、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」第2編 2.取締役会・取締役 (6)選解任 および 3.監査役会・監査役 (3)選任に記載しております。
- (5)取締役・監査役・執行役員を選任する理由  
各取締役の選任理由は、定時株主総会招集ご通知の取締役選任議案参考書類に記載しております。  
各監査役の選任理由は、定時株主総会招集ご通知の監査役選任議案参考書類に記載しております。  
各執行役員を選任する理由は、取締役会で決議する際、取締役会に対し十分な説明を行っております。

### 【補充原則4-1-1】

#### 取締役会の役割・責務

当社は、執行と監督を分離する方針のもと、取締役会に付議すべき事項は、取締役会が定める取締役会規程および取締役会付議・報告基準に規定しており、それらは法定事項、定款所定事項等、経営の基本方針に関する事項や中長期的経営計画等経営上の重要な事項からなっています。

経営陣は、取締役会で決定された経営の基本方針および経営計画に即した事業遂行を行っております。

### 【原則4-8】

#### 独立社外取締役の有効な活用

当社は、取締役会の監督機能を高める観点から、複数の独立社外取締役を選定しております。

### 【原則4-9】

#### 独立社外取締役の独立性判断基準および資質

当社の社外取締役の独立性判断基準および資質については、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」第2編 2.取締役会・取締役 (6)選解任 および 別紙1.独立社外取締役の独立性判断基準に記載しております。

### 【補充原則4-11-1】

#### 取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性および規模に関する考え方

当社の取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性および規模に関する考え方については、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」第2編 2.取締役会・取締役 (1)取締役会の役割、(2)全体の構成、(6)選解任に記載しております。

### 【補充原則4-11-2】

#### 取締役・監査役の兼任状況

当社は、取締役および監査役の他の上場会社の役員の兼任状況について、定時株主総会招集ご通知の参考書類や事業報告等において毎年開示しております。

### 【補充原則4-11-3】

#### 取締役会の実効性についての分析・評価

当社の取締役会の実効性についての分析・評価については、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」第2編 2.取締役会・取締役 (9)実効性評価に記載しております。

### 【補充原則4-14-2】

#### 取締役・監査役へのトレーニング

当社の取締役・監査役へのトレーニングについては、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」第2編 7.トレーニングに記載しております。

### 【原則5-1】

#### 株主との建設的な対話に関する方針

当社の株主との建設的な対話に関する方針については、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」第3編 3.株主との対話に記載してお

ります。

## 2. 資本構成

外国人株式保有比率 10%未満

### 【大株主の状況】 更新

氏名又は名称	所有株式数(株)	割合(%)
三井物産株式会社	1,554,941	16.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	352,000	3.66
株式会社三井住友銀行	324,942	3.38
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	321,000	3.34
農林中央金庫	304,488	3.16
株式会社三菱UFJ銀行	279,940	2.91
株式会社鶏橋興産	234,982	2.44
スターゼン社員持株会	227,140	2.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	204,100	2.12
株式会社みずほ銀行	160,338	1.66

支配株主(親会社を除く)の有無

親会社の有無

なし

補足説明

## 3. 企業属性

上場取引所及び市場区分 東京 第一部

決算期 3月

業種 卸売業

直前事業年度末における(連結)従業員数 1000人以上

直前事業年度における(連結)売上高 1000億円以上1兆円未満

直前事業年度末における連結子会社数 10社以上50社未満

## 4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

## 5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社
------	---------

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	20名
定款上の取締役の任期 <span style="background-color: #FFD700;">更新</span>	1年
取締役会の議長	社長
取締役の人数 <span style="background-color: #FFD700;">更新</span>	13名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数 <span style="background-color: #FFD700;">更新</span>	3名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1) 更新

氏名	属性	会社との関係( )												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k		
大原 亘	他の会社の出身者													
梅野 博之	他の会社の出身者													
名古屋 裕	他の会社の出身者													

会社との関係についての選択項目

本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、**「過去」に該当している場合は「」**

近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、**「過去」に該当している場合は「」**

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びiのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
大原 亘		同氏は、(株)帝国倉庫の代表取締役を務めております。同社と当社は書類の保管・廃棄の取引がありますが、当社の経営に影響を与えるような特記すべき取引関係はございません。	金融機関および事業会社における経営者として長年の経験を有しており、企業経営全般に関する幅広い経験と識見を有しております。当グループの意思決定プロセスを監督し、株主共同の利益の為、適切な助言を得られる人材であることから、独立役員に指定しております。
梅野 博之		同氏は、当社の主要借入先である農林中央金庫の業務執行者でありましたが、2010年7月に同金庫を退職しております。	長年にわたり金融・財務に関する業務に従事し、専門的な識見を有しております。当グループの意思決定プロセスを監督し、株主共同の利益の為に適切な助言を得られる人材であることから、独立役員に指定しております。

名古屋 裕		畜産事業を含む食料事業全般に関する高い知見を有しております。当グループの意思決定プロセスを監督し、株主共同の利益の為に適切な助言を得られる人材であることから、社外取締役として選任しております。
-------	--	--

指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無	あり
----------------------------	----

任意の委員会の設置状況、委員構成、委員長(議長)の属性

	委員会の名称	全委員(名)	常勤委員(名)	社内取締役(名)	社外取締役(名)	社外有識者(名)	その他(名)	委員長(議長)
指名委員会に相当する任意の委員会	指名報酬委員会	6	0	2	0	1	3	社外有識者
報酬委員会に相当する任意の委員会	指名報酬委員会	6	0	2	0	1	3	社外有識者

補足説明 更新

・2017年6月6日の取締役会においてスターゼン コーポレートガバナンス基本方針の変更を行い、指名委員会と報酬委員会を統合し、指名報酬委員会と致しました。

**【監査役関係】**

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役の数 <span style="background-color: orange;">更新</span>	6名
監査役の数	4名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況 更新

監査役は、会計監査人より監査結果等について定期的に報告を受ける他、必要に応じて適宜情報交換を行い、各々の監査の実効性確保に努めております。  
 常勤監査役は取締役会等重要な会議に常時出席、また社外監査役についても取締役会に出席し、取締役の職務執行状況等を把握する体制を確保しております。  
 また、内部監査部門である監査部は、独立した立場で当社内部統制について検証を行っております。監査部は、監査法人と意見交換を行うなどお互いに連携し、その業務について定期的、また適宜監査役に報告を行っております。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の数	3名
社外監査役のうち独立役員に指定されている数	3名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係( )												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
北條 秀樹	他の会社の出身者													
山本 麻記子	弁護士													
小越 信吾	公認会計士													

会社との関係についての選択項目  
 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、  
 「過去」に該当している場合は「」  
 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「」、  
 「過去」に該当している場合は「」  
 a 上場会社又はその子会社の業務執行者  
 b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与

- c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- d 上場会社の親会社の監査役
- e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- i 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- j 上場会社の取引先(f、g及びhのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- m その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
北條 秀樹		同氏は、(株)三井住友銀行の業務執行者でありましたが、2004年12月に同行を退職しております。	金融機関での業務を通じて培われた知識、見地から客観的な視点で当社の経営を監査していただくため。当社と北條秀樹氏との間に利害関係はなく、最終的には株主利益に寄与するものと考え、独立役員として指定しております。
山本 麻記子			弁護士としての専門的見地から、社外監査役としての職務を適切に遂行することができるものと考えております。当社と山本麻記子氏との間に利害関係はなく、最終的には株主利益に寄与するものと考え、独立役員として指定しております。
小越 信吾			公認会計士と税理士の資格を有し、財務および会計に精通しており、社外監査役としての職務を適切に遂行することができるものと考えております。当社と小越信吾氏との間に利害関係はなく、最終的には株主利益に寄与するものと考え、独立役員として指定しております。

**【独立役員関係】**

独立役員の数 更新 5名

その他独立役員に関する事項

独立役員の資格を充たす役員は全て独立役員に指定しております。

**【インセンティブ関係】**

取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況 業績連動型報酬制度の導入

該当項目に関する補足説明

取締役へのインセンティブ付与は、業績連動報酬にて実施しております。

ストックオプションの付与対象者

該当項目に関する補足説明

**【取締役報酬関係】**

(個別の取締役報酬の)開示状況 個別報酬の開示はしていない

該当項目に関する補足説明

有価証券報告書に取締役報酬総額を開示しております。

報酬の額又はその算定方法の決定方針  
の有無 **更新**

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

- ・取締役の報酬については、取締役会の諮問機関である指名報酬委員会が原案を作成し、各人の役位、在勤年数などをベースに、当期の業績および業績への各人の貢献度などの諸般の事情を勘案して、株主総会で決議された総額の範囲内において決定しております。
- ・2017年6月6日の取締役会においてスターゼン コーポレートガバナンス基本方針の変更を行い、指名委員会と報酬委員会を統合し、指名報酬委員会と致しました。

### 【社外取締役(社外監査役)のサポート体制】 **更新**

社外取締役については、取締役会事務局が、また社外監査役については秘書室と監査部においてサポートしております。

## 2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項(現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要) **更新**

### (1) 取締役会

取締役会は社内取締役10名、社外取締役3名で構成されております。また、社外監査役3名を含む監査役4名が出席しております。

取締役会は、年12回以上開催、また、必要に応じ臨時取締役会を機動的に開催し、会社の経営方針ならびに業務執行上の重要事項を決議しております。

### (2) 執行役員制度

執行役員制度を導入しております。執行役員は取締役会において選任され、取締役会の決定に従い、会社業務の執行を迅速にかつ的確に行っております。

### (3) 監査役および監査役会

監査役につきましては、監査役制度を採用しており、監査役会は常勤監査役2名、非常勤監査役2名で構成され、3名が社外監査役です。

常勤監査役は、取締役会等重要な会議に常時出席、また社外監査役についても取締役会に出席し、取締役の職務執行状況等を把握する体制を確保しております。

### (4) 指名報酬委員会

任意の委員会として指名報酬委員会を取締役会の諮問委員会として設置し、経営体制の透明性を高めています。同委員会は社外委員を委員長とし、原則として委員の過半数を社外委員としております。

### (5) 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役および監査役が期待される役割を發揮できるよう、また広く優秀な人材を登用できるよう、平成27年6月26日開催の第76回定時株主総会の決議により、定款に取締役(業務執行取締役等である者を除く。)および監査役との間で会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約の締結を可能とする規程を定めております。

本規程に基づき、当社は、社外取締役3名および社外監査役3名全員と当契約を締結いたしております。なお、当契約に基づく賠償の限度額は、会社法第425条第1項で定める最低責任限度額です。

### (6) 内部監査部門

内部監査については、監査部が独立した立場で会社の内部統制の適切性および有効性を検証するとともに、会社の組織、制度および業務が経営方針および諸規程に準拠し、効率的に運用されているかを検証、評価および助言することにより、不正、誤謬の未然防止、正確な管理情報の提供、財産の保全、業務活動の改善向上を図り、経営効率の増進に資することを目的としております。

### (7) 会計監査

当社と新日本有限責任監査法人との間では、会社法監査および金融商品取引法監査について監査契約を締結し、当監査法人は、公正な立場で監査を行っております。業務を執行した公認会計士(指定有限責任社員)は2名で、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士9名、その他21名であります。

### (8) コンプライアンス委員会

当社は企業倫理の向上、法令遵守の徹底を図るため、2003年4月に「倫理委員会」(現コンプライアンス委員会)を発足させ、年3回開催しております。

委員会は外部委員と内部委員で構成され、子会社を含めた社員教育の強化、コンプライアンス活動、社会貢献活動等を推進しております。

### (9) 品質管理

品質管理への取り組みとして「SQF」(HACCPとISOを融合した品質管理システム)の認証取得に向けて、活動を行っております。

また、消費者の食肉履歴照会に関する要請の高まりを受け、国産牛・豚肉につきましては、当社独自のトレーサビリティシステムを完成し稼働させております。

### (10) リスク管理

「リスク管理委員会」を設置し、リスク管理規程に従い、事業を取り巻くさまざまなリスクに対する的確な管理、また発生したリスクへの対応等を可能とする体制を整えて、グループ全社的なリスク管理・推進に関わる課題・対応策を協議しております。

## 3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社では、上記のような運用体制を機能させることで経営の透明性を確保し、業務の適正を高めると考え、現在のコーポレート・ガバナンス体制を採用しております。さらに当社のコーポレートガバナンスの考え方や枠組みを示す、「スターゼン コーポレートガバナンス基本方針」を制定し、公表しております。



## 株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

### 1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況 更新

	補足説明
電磁的方法による議決権の行使	インターネットを通じた議決権行使を可能としております。
その他	株主総会において株主様に事業報告をより理解していただけますよう、説明資料を作成し、スクリーンに投影しながら説明しております。

### 2. IRに関する活動状況 更新

	補足説明	代表者自身による説明の有無
アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催	当社経営戦略等に関する説明会を、機関投資家・アナリスト向けに定期的を開催し、代表取締役他が説明を実施しております。	あり
IR資料のホームページ掲載	財務関係データ、決算短信、有価証券報告書、アニュアルレポートを掲載しております。	
IRに関する部署(担当者)の設置	経営本部 広報IR室	

### 3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	「スターゼングループ行動規範と行動指針」の中に、お客様・株主様・お取引先様に対して公正で透明性のある企業活動を提唱しております。
環境保全活動、CSR活動等の実施	事務所近隣の清掃美化活動、福祉活動、地域スポーツ活動への支援を定期的に行っております。また「環境基本方針」を定め、すべての事業活動において環境保全に取り組んでおります。
ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定	決算等の情報開示の年間スケジュールを策定し、ホームページにおいて掲載しております。

## 内部統制システム等に関する事項

### 1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

- (1) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
  - 1) 当社及びグループ会社の全役員、社員を対象としたグループ行動規範と行動指針を定めます。
  - 2) 外部の有識者、専門家を含む委員会を設置しコンプライアンス上の重要な問題を審議し、その結果を取締役に報告します。
  - 3) 委員会事務局を設置し、コンプライアンスに関する取り組みを横断的に推進、統括します。
  - 4) 内部監査部署はコンプライアンスの状況を監査します。
  - 5) 法務上疑義のある行為等について、社員が直接情報提供を行う手段として外部専門家を窓口とするホットラインを設置・運営します。
  - 6) 当社およびグループ各社は社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力による不当な要求に対して断固これを排除し、これらの勢力とは一切関係を持ちません。
- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
  - 1) 文書管理に関する規程を定めこれに従い、取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体に記録し、保存します。
  - 2) 取締役および監査役は、常時これらの文書等を閲覧できるものとします。
- (3) 損失の危機の管理に関する規程その他の体制
  - 1) コンプライアンス、品質管理、与信審査、災害等に係る個別リスクについては、それぞれの担当部署を定め、規程の制定、研修の実施等を行うものとします。
  - 2) これらを統合して組織横断的に管理するリスク管理規程を定め、これに従い全体のリスク管理を行います。
  - 3) 新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに担当部署を定めます。
- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  - 1) 取締役会は年12回以上の定例取締役会と臨時取締役会を開催し、意思決定を行います。
  - 2) 執行役員制度により取締役会の決定に基づく業務執行の責任を明確にするとともに、迅速かつ的確に執行します。また年12回以上の執行役員会を開催し、業務執行の円滑化を図ります。
  - 3) グループ営業会議の定時開催により、関係会社各社の年次計画に対する実績の分析、業務進捗報告および製造販売のすり合わせを行います。
  - 4) 生産技術会議、食肉生産工場会議を定時開催し、工場間での実績の分析、改善方法を検討します。
  - 5) 中期経営計画と年次計画を策定し、グループ営業会議で業績管理を行います。
  - 6) 日常業務管理は個別権限管理基準、業務決裁・報告基準により執行します。
- (5) 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
  - 1) グループ会社の管理に係る規程を定め、グループ各社の担当部署を定めるとともにグループ会社との協議事項を定めます。
  - 2) 必要に応じて当社役員、社員をグループ会社の役員、経理責任者等として派遣し業務を管理します。
  - 3) 当社の内部監査部署は、グループ会社の内部監査を実施し、その結果を代表取締役へ報告します。
- (6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項とその使用人の取締役からの独立性に関する事項およびその使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
  - 1) 監査役(会)が、補助する使用人を求めた場合は、内部監査部署の社員が協力するものとします。
  - 2) その場合、該当する内部監査部署の社員の人事事項に関しては監査役(会)と意見交換するものとします。
  - 3) 監査役を補助する使用人はその職務に関して監査役の指揮命令のみに服し、取締役等から指揮命令は受けないこととします。
- (7) 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
  - 1) 監査役(会)と協議のうえ、取締役および社員が監査役(会)に対して、当社および当社グループに重大な影響を及ぼす事項等を速やかに報告する体制を整備します。また、取締役は、財務報告の適正性および法令遵守状況等について、業務執行確認書を監査役会に提出します。また、内部監査部署は監査法人と意見交換を行うなどお互いに連携し、その業務について定期的、また適宜監査役に報告を行っております。
  - 2) 当社および子会社は、監査役へ報告を行った当社および子会社の取締役および使用人に対し、当該報告を行ったことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止します。
- (8) その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制
  - 1) 監査役(会)の求めに応じて、代表取締役との意見交換会を設定します。
  - 2) 監査役は、職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理については、適切な予算を確保するとともに、当該監査役は職務に必要でない認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理します。

### 2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況 更新

スターゼングループは、企業の倫理的使命として、反社会的勢力との決別を掲げ、市民社会に脅威を与える反社会的勢力、団体とは断固として対決し、これらを助長するような行為は行いません。

上記の基本的考え方を「スターゼングループ行動規範と行動指針」に明記しております。

取締役は、監査役会に提出する「業務執行確認書」の中で、反社会的勢力の排除を確認しております。

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無

あり

該当項目に関する補足説明 更新

当社は、財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その概要は次のとおりです。

(1) 基本方針の内容の概要

当社取締役会は、当社株式に対する大規模な買付等が行われた場合でも、その目的等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものであれば、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えたものではありません。また、支配権の移転を伴う買収提案に応じるかどうかの判断も、最終的には株主の皆様ご意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大規模な買付等の中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対して明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主の皆様が株式の売却を事実上強制するおそれのあるもの、取締役会や株主の皆様が株式の大規模な買付等の内容等について検討し、あるいは取締役会が代替案を提示するために合理的に必要な十分な時間や情報を提供することのないもの等、買付等の対象とされた会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

そこで、当社取締役会は、当社株式に対して大規模な買付行為等が行われた場合に、株主の皆様が適切な判断をするために、必要な情報や時間を確保し、買付者等との交渉等が一定の合理的なルールに従って行われることが、企業価値ひいては株主共同の利益に合致すると考え、以下の内容の大規模買付時における情報提供と検討時間の確保等に関する一定のルール(以下「大規模買付ルール」といいます。)を設定し、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって大規模買付行為がなされた場合の対応方針を含めた対抗策を講ずる必要があると考えます。

(2) 会社支配に関する基本方針の実現に資する取り組み

当社グループは、事業環境の変化への対応強化、顧客価値の創造及び企業価値向上を目指し、平成30年度を初年度とする3年間を対象とした中期経営計画を策定し、株主共同の利益の一層の向上を追求し、さらには財務体質の強化と内部留保の充実を考慮しつつ、株主利益を重視した配当政策を実施してまいります。

(3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための

取り組みの概要

当社は、会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるための取り組みとして、2019年5月9日開催の当社取締役会において、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策(以下「本プラン」といいます。)」の継続を決議し、2019年6月27日開催の第80回定時株主総会において、本プランの継続についてご承認を得ております。

本プランの対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループ(注1)の議決権割合(注2)を20%以上とすることを目的とする当社株券等(注3)の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為(いずれについてもあらかじめ当社取締役会が同意したものを除き、また市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いません。以下、かかる買付行為を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。)とします。

当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し評価必要情報の提供を完了した後、対価を現金(円価)のみとする公開買付による当社全株式の買付の場合は最長60日間、その他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間(以下「取締役会評価期間」といいます。)として設定します。従って、大規模買付行為は、かかる取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるものとします。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様を説得するに留め、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、株主の皆様において、当該買付提案及び当社が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等をご考慮の上、ご判断いただくこととなります。

但し、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合や、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が、結果として会社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと当社取締役会が判断する場合には、例外的に当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として必要かつ相当な範囲で、対抗措置の発動を決定することができるものとします。

上記のとおり例外的に対抗措置を発動することについて判断する場合には、その判断の客観性及び合理性を担保するため、当社取締役会は、対抗措置の発動に先立ち、独立委員会に対し対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は対抗措置発動の必要性、相当性を十分検討した上で上記の取締役会評価期間内に勧告を行うものとします。当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、対抗措置発動又は不発動について判断を行うものとします。

また、選択した対抗措置の内容によっては、法令及び定款の定めに従って株主総会で決議を求めること、あるいは独立委員会の勧告に基づいて株主総会場で株主承認を求めることがあります。このように株主意思確認手続きをとった場合は、株主の皆様ご意思を確認の上、対抗措置の発動、不発動の手続きが完了するまでは、大規模買付行為は開始できないものとします。

なお、本プランの有効期限は2022年6月30日までに開催される当社第83回定時株主総会の終結の時までとします。ただし、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合、当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

また、本プランの有効期間中であっても、当社取締役会は、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から随時見直しを行い、株主総会の承認を得て本プランの変更を行うことがあります。このように、当社取締役会が本プランについて継続、変更、廃止等の決定を行った場合には、当社取締役会は、その内容を速やかに開示します。

なお、当社取締役会は、本プランの有効期間中であっても、本プランに関する法令、金融商品取引所規則等の新設または改廃が行われ、かかる新設または改廃を反映するのが適切である場合、誤字脱字等の理由により字句の修正を行うのが適切な場合等、株主の皆様ご不利益を与えない場合には、必要に応じて独立委員会の承認を得た上で、本プランを修正し、又は変更する場合があります。

(注)1 特定株主グループとは、

- (i) 当社の株券等(金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等をいいます。)の保有者(同法第27条の23第3項に基づき保有者に含まれる者を含みます。以下同じとします。)及びその共同保有者(同法第27条の23第5項に規定する共同保有者をいい、同条第6項に基づく共同保有者とみなされる者を含みます。以下同じとします。)又は、
- (ii) 当社の株券等(同法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。)の買付け等(同法第27条の2第1項に規定する買付け等をいい、取引所金融商品市場において行われるものを含みます。)を行う者及びその特別関係者(同法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。)を意味します。
- (注)2 議決権割合とは、
- (i) 特定株主グループが、注1の(i)記載の場合は、当該保有者の株券等保有割合(金融商品取引法第27条の23第4項に規定する株券等保有割合をいいます。この場合においては、当該保有者の共同保有者の保有株券等の数(同項に規定する保有株券等の数をいいます。以下同じとします。)も加算するものとします。)又は、
- (ii) 特定株主グループが、注1の(ii)記載の場合は、当該大規模買付者及び当該特別関係者の株券等所有割合(同法第27条の2第8項に規定する株券等所有割合をいいます。)の合計をいいます。  
各議決権割合の算出に当たっては、総議決権の数(同法第27条の2第8項に規定するものをいいます。)及び発行済株式の総数(同法第27条の23第4項に規定するものをいいます。)は、有価証券報告書、四半期報告書及び自己株券買付状況報告書のうち直近に提出されたものを参照することができるものとします。
- (注)3 株券等とは、金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等又は同法第27条の2第1項に規定する株券等のいずれかに該当するものを意味します。
- (4) 本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて  
買収防衛策に関する指針の要件を充足していること  
本プランは、経済産業省及び法務省が2005年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則(企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則)を充足しています。  
また、経済産業省に設置された企業価値研究会が2008年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」及び東京証券取引所が2015年6月1日に公表した「コーポレートガバナンス・コード」の「原則1-5いわゆる買収防衛策」の内容も踏まえたものとなっております。  
株主共同の利益の確保・向上の目的をもって継続されていること  
本プランは、上記に記載したとおり、当社株式に対する大規模買付行為がなされた際に、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、又は株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって継続されるものです。  
株主意思を反映するものであること  
本プランは、第80回定時株主総会での承認によりすでに発効継続されており、本プラン継続後、有効期間の満了前であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されます。  
独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示  
本プランにおける対抗措置の発動は、上記に記載したとおり、当社の業務執行を行う経営陣から独立している委員で構成される独立委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、また、その判断の概要については株主の皆様に適宜公表することとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に適うように本プランの透明な運用を担保するための手続も確保されており、  
デッドハンド型やスローハンド型の買収防衛策ではないこと  
本プランは、当社株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策)ではありません。  
また、当社は、期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の交代を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策)でもありません。

## 2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項 更新

- (1) 適時開示体制の概要
- 1) 適時開示の担当部署
- ・適時開示は、経営本部が担当します。
  - ・重要事実の情報かどうかの判断は、管理部門管掌役員、当該案件担当役員、管理本部、経営本部等で適時開示規則等に則して協議します。
- 2) 会社情報の適時開示に係る社内体制
- ・代表取締役社長へ報告し、内部者情報を厳重に管理・保持するとともに経営本部が適時開示します。
  - ・適時開示までの間における内部者情報の取り扱い、社内規程(グループインサイダー取引防止に関する規程)に基づき、内部者取引の禁止の徹底を図るとともに、情報の管理に万全を期しております。
- 3) 東京証券取引所への適時開示
- ・決定事実及び決算に関する情報については、代表取締役に報告し、取締役会承認後遅滞なく適時開示を行っております。
  - ・発生事実は、代表取締役承認後、遅滞なく適時開示を行っております。
  - ・開示方法は、適時開示情報伝達システム(TDnet)により公表しております。なお、TDnetによって公表した情報は、当社ホームページに速やかに掲載することとしております。
- (2) 相談役・顧問
- 1) 役割
- 相談役・顧問は、知識および経験を活かし、法的には直接、経営に責任のない立場から、代表取締役に求められた場合に限定し、助言を行うとともに、業界・財界活動、地域貢献活動、お取引先との関係維持活動等を通じ、間接的に当社の業績向上に寄与します。
- 2) 選任
- 相談役は役付取締役経験者より、顧問は有識者より厳選のうえ、選任については取締役会の承認を得るものとします。
- 3) 報酬
- 相談役・顧問の報酬については定額報酬のみで構成します。

コーポレート・ガバナンスおよび内部統制システム構築の基本方針 模式図

